

令和2年度 研究紀要 第232号

《 研究主題 》

主体的・対話的で深い学びの 実現を目指した授業づくり ～3年次～

- (1) 主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理
- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の単元デザイン
- (3) 主体的・対話的で深い学びにおける評価について



登別市立幌別西小学校
4年2組 阿部 悠翔



《巻頭言》

「この紀要は、本研究所のいのちです」

胆振教育研究所長 野 崎 均
(登別市立緑陽中学校長)

本研究所の目的は、「胆振管内の教育の進展に寄与する」ことです。その目的に迫るため、所員が直接皆様の学校にお邪魔をさせていただき、研究に参加をさせていただいております。そのときに研究所員としてどのような視点で各校の研究に参画するのかを表したものが、本紀要です。この紀要は、「本研究所のいのち」と言っても過言ではありません。

学校訪問で皆様とともに考えるもととなる紀要ですから、「今の学校に求められていることは何か」ということと、「実際に現場が求めていることはどんなことか」という2点を、われわれは大切にしてきました。

3年前、研究所として皆様とともに考える内容を検討したとき、令和2年度には小学校において、3年度には中学校において新学習指導要領が全面実施を迎えることから、「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」に焦点を当て本研究所において研究に取り組むこととし、今年度、その3年間の研究のまとめである本紀要を皆様にお示しするに至りました。

「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなもので、授業者としてどのような視点で授業改善を進めるべきなのか、単元等を通して迫るとはどのようなイメージのもので、その評価はどうあるべきなのかを、できるだけ具体的にまとめております。

皆様方お一人お一人にお配りいたします。ぜひ手に取っていただき、各校の、あるいはご自身の授業改善のお供としていただけましたら、われわれ所員一同、これほどの喜びはございません。そして、お気づきの点やもう少し詳しくお知りになりたいところ、ご意見等がございましたら、どうぞ教えてください。皆様のお力をお借りして、私どもも成長してまいりたいと考えております。

終わりになりますが、本研究の推進にあたり、ご指導とご協力をいただきました胆振教育局をはじめ、各市町教育委員会並びに各市町教育研究会の皆様へ深く感謝申し上げ、研究紀要発刊にあたっての挨拶といたします。

《巻頭言》

「この紀要は、本研究所のいのちです」

胆振教育研究所長 野 崎 均

I 研究の構想

1	研究主題	1
2	研究主題設定の理由	1
3	研究内容	1
4	研究の全体構造	2

II 研究内容

1	主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理	3
	・主体的・対話的で深い学びとは	3
	・主体的・対話的で深い学びの主語は「子供」	4
	・授業改善を学習者の視点と授業者の視点から	5
	・主体的・対話的で深い学びは单元などを通して実現	6
	・深い学びの具体的な姿	7
2	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の单元デザイン	9
	・各教科等の单元デザインとは	9
	・单元デザイン例 国語 小学校5年	10
	・单元デザイン例 社会 中学校3年	11
	・单元デザイン例 算数 小学校6年	13
	・单元デザイン例 理科 中学校3年	14
	・单元デザイン例 生活 小学校2年	15
	・单元デザイン例 音楽 小学校2年	16
	・单元デザイン例 図画工作 小学校4年	17
	・单元デザイン例 家庭 小学校5年	18
	・单元デザイン例 保健体育 中学校1年	19
	・单元デザイン例 外国語 小学校5年	20
	・单元デザイン例 総合的な学習の時間 小学校4年	21
	・单元デザイン例 特別活動 小学校 クラブ活動	22
	・道徳科における主題や題材の内容・時間のまとまりを見通した実践と教科等横断的な指導	23
3	主体的・対話的で深い学びにおける学習評価について	25
	・学習評価とは	25
	・カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価	26
	・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価	26
	・学習評価の基本構造	27
	・各教科の学習評価の基本構造	28
	・「知識・技能」の評価	29
	・「思考・判断・表現」の評価	29
	・「主体的に学習に取り組む態度」の評価	30
	・単元の学習評価例	32

III 研究のまとめ

	・3年間の研究を振り返って	35
	・参考資料一覧、研究・執筆	36
	・あとがき	37

I 研究の構想

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

2 研究主題設定の理由

(1) 教育改革の動向より

情報化やグローバル化といった急激な社会的変化の中で、子どもたちに持続可能な社会の創り手となるために必要な力を確実に備えさせることが、これからの学校教育に求められています。

平成29年に告示された新学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。そのため、全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されました。

このような資質・能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子どもたちが「どのように学ぶか」という「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が重要であるという視点のもと総則にも規定されました。

私たち教員は、改訂の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められます。

(2) 学校現場の声から

平成28年度の本教育研究所の調査課題研究「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」から、次のような課題が見られることがわかりました。

《課題として見られること》

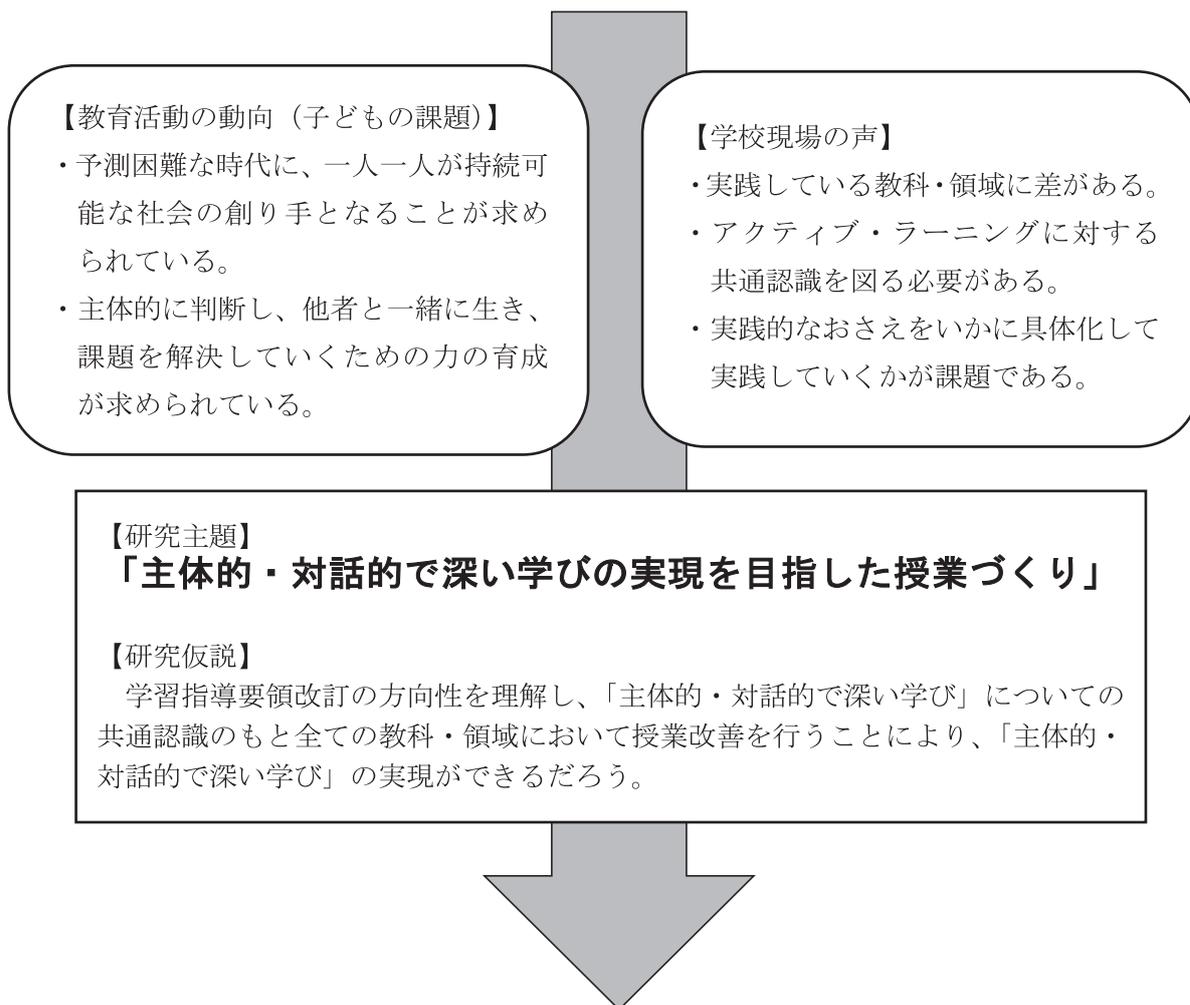
- 実践している教科・領域に差があること。
- 教職員間や学校間でアクティブ・ラーニングに対する共通認識を図ること。
- アクティブ・ラーニングの実践的なおさえを具体化して実践していくこと。

胆振管内の小・中学校が、どの教科・領域においても「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を推進するにあたり、先進的な実践や各学校での具体的な取組を交え、研究を深めていくことが大切だと考えます。

3 研究内容

- ・ 主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の単元デザイン
- ・ 主体的・対話的で深い学びにおける評価について
- ・ 研究のまとめ

4 研究の全体構造



【1年次】理論研究の基礎・基本

- ・新学習指導要領の方向性
- ・アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善
- ・授業改善に向けての「問い」



【2年次】理論研究に基づく実践研究

- ・学びの質を高める主体的・対話的で深い学びの具体的な実践について
- ・主体的・対話的で深い学びに向けたカリキュラム・マネジメントについて
- ・主体的・対話的で深い学びの成立に向けた取組について（Q&A形式）



【3年次】理論研究のまとめ

- ・主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の単元デザイン
- ・主体的・対話的で深い学びにおける評価について
- ・研究のまとめ

※1年次・2年次の理論研究は上記のQRコードより見ることができます。

Ⅱ 研究内容

1 主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理

主体的・対話的で深い学びとは

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されています。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童生徒の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすることが求められています。

○主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげます。

<「主体的な学び」を実現する子どものイメージ>



○対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めます。

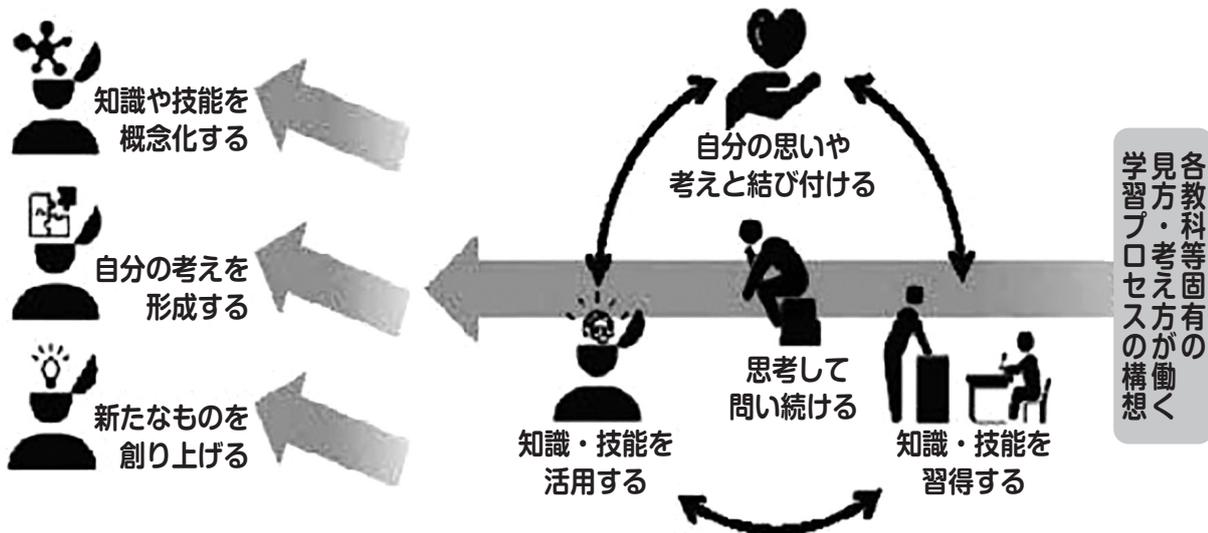
<「対話的な学び」を実現する子どものイメージ>



○深い学び

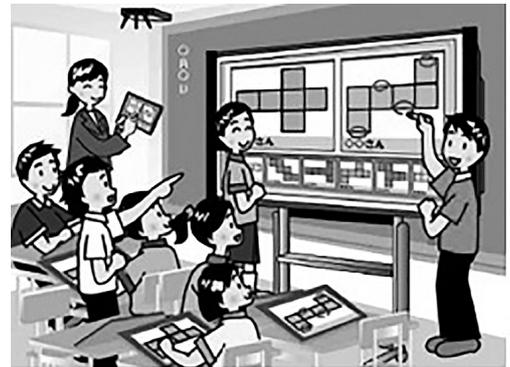
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりします。

＜「深い学び」を実現する子どものイメージ＞



主体的・対話的で深い学びの主語は「子ども」

上の三つは授業改善の視点として示されているものですが、主語が子ども＝学習者になっています。従来の学習指導要領は「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられていましたが、答申では、「まず学習する子どもの視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて『何ができるようになるか』という



観点から、育成を目指す資質・能力を整理する必要がある。その上で、整理された資質・能力を育成するために『何を学ぶか』という、必要な指導内容等を検討し、その内容を『どのように学ぶか』という、子どもたちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。」と述べています。子どもが「どのように学ぶか」の姿として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」であるのです。

授業改善を学習者の視点と授業者の視点から

都道府県や市町村教育委員会は主体的・対話的で深い学びの実現に向け、多様な授業の指針を作成しています。それらの授業の指針の主語は、教師＝授業者を主語として示されています。国立教育政策研究所の「学校における教育課程編成の実証的研究」の研究メモには主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、「学習者」の視点と「授業者」の視点を併せて示されています。主体的・対話的で深い学びを実現するために、教師が何に取り組めばよいのかが明示的に示されています。

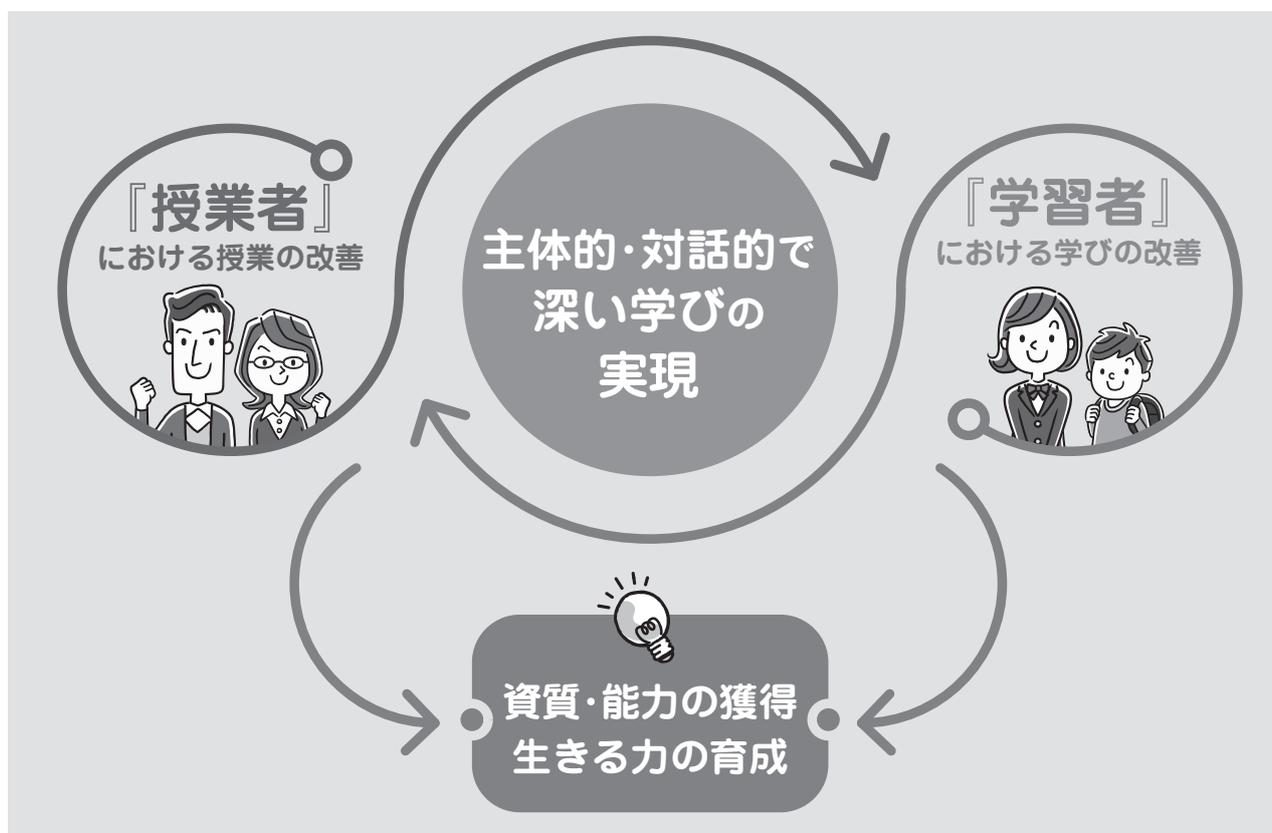
	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> • 学ぶことに興味や関心を持つ • 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける • 見通しをもつ • 粘り強く取り組む • 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> • 既習事項を振り返る • 具体物を提示して引きつける • 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する • 子供が自らめあてをつかむようにする • 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる • 子供が自分の考えを持つようにする • 子供の思考を見守る • 子供の思考に即して授業展開を考える • 子供の考えを生かしてまとめる • その日の学びを振り返る • 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> • 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める • 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める • 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める • 先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> • 思考を交流させる • 交流を通じて思考を広げる • 協働して問題解決する • 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> • 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる • 知識を相互に関連付けてより深く理解する • 情報を精査して考えを形成する • 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> • 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） • 単元や各授業の目標を把握する • ねらいを達成した子供の姿を具体化する • 教材の価値を把握する • 単元及び各時間の計画を立てる • 目標の達成状況を評価する

国立教育政策研究所「学校における教育課程編成の実証的研究 報告書1」及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（検討メモ）より

主体的・対話的で深い学びは単元などを通して実現

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で授業改善を進めることが重要となります。すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは、単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかという単元デザインを考えることが重要となります。

※単元デザインについては、本書 P.9より詳しく述べています。



国立教育政策研究所「学校における教育課程編成の実証的研究 報告書1」及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（検討メモ）より

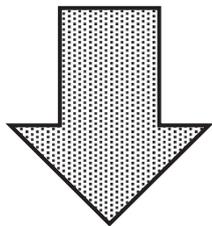
深い学びの具体的な姿

深い学びが実現できた子どもの姿は、主体的な学びや対話的な学びに比べ、子どもたちの頭や心の中の状況であるため捉えにくいと感じられます。そこで、NITSの「実現したい子供の姿ピクトグラム」に照らし合わせて深い学びが実現できた具体的な子どもの姿を例に挙げます。

 <p>思考して 問い続ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした問題を解決するために考え続ける中で、新たな問いに気付いている ・得られた結果について再考している ・よりよい結果に近づけようとしている ・別解を見いだそうとしている
 <p>自分の考え を形成する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を選択し、自分の考えを作り上げている ・必要な情報を関連付けて、自分の考えを作り上げている
 <p>自分の思いや考 えと結び付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことと、自分の思いや考えを結び付けている ・表現方法と、自分の思いや考えを結び付けている ・調べて分かったことと、自分の思いや考えを結び付けている
 <p>新たなものを 創り上げる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感性や想像力を働かせ、新たなものを創造している ・今までに身に付けたことを使って、新たなものを創造している
 <p>知識・技能 を活用する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項と関連付けて考えている ・既習事項と関連付けて理解している ・既習事項と関連付けて作ったり試したり話し合ったりしている
 <p>知識・技能 を習得する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意味を理解した上で知識を身に付けている ・用途や目的に沿った適切な技能を身に付けている
 <p>知識や技能を 概念化する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を本時の学習内容と関連付けて体系化し、より深く理解している

また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の笠井健一氏は、初等教育資料 No.996 の中で、算数科における問題解決の際、例えば次のような子どもの姿が深い学びの姿として考えられると述べています。

- 解けなかった子どもが解けるようになること。
- 一通りの方法で解けた子どもが二通りの方法で解けるようになること。
- 具体物を用いて答えを出していた子どもが、図をかくことで答えが求められるようになること。
- 逆に式だけで答えを出していた子どもが、式の意味を具体的に図に表して答えをだすことができるようになること。



このような子どもたちに対してのさらなる深い学びとして、次のような姿が考えられます。

- 二通りの方法のどちらの方がよいかを判断できるようになること。
(似た問題を考え、それぞれの方法で同じように解くことができるかを考えるなどして)
- 二通りの考えの共通点を見付け、問題を解くポイントをまとめること。

このように、授業における子どもたちの具体的な深い学びの姿は様々であります。授業のねらいを達成した子どもの姿を明確にして、問題解決の際の子どもの実態に合わせて、適切に深い学びを考えていく必要があります。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の単元デザイン

各教科等の単元デザインとは

新学習指導要領解説 総則編には以下のように述べられています。

各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、特に学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。以下同じ。）、問題発見・解決能力等）や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、**単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うこと**が求められる。

つまり主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善は一単位時間の授業に焦点を当ててではなく、より広く大きな視点に立ち、単元を見通して授業づくりを進めることが重要となります。そこで、全ての教科等における単元デザイン例を作成しましたので、単元構想の参考にさせていただければと思います。

【単元デザイン例 小学校 5年国語】

国語「言葉による見方・考え方」

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方を着目して探るたり問い質したりして、言葉への見方を高めること。

単元デザインのポイント

・学習の見通しをもつ、一つの新聞記事から情報を探る活動で身に付けた力を生かして、複数の資料を読んで活用するという学習の流れを重視した。

- 1 単元名
読書に関する情報を読んで活用しよう
- 2 単元の目標
 - (1) 文章の構成について理解することができる。
 - (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。
 - (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
 - (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、速んで読書をし、図解の大切さを自覚して思いや考えを伝えようとする。
- 3 単元の指導計画と学びの発展ポイント（全5時間）

時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	<ul style="list-style-type: none"> ○読書時間にして、自分たちの読書生活や自分たちの学校の取組を振り返る。 ○自分たちが住んでいる市の読書推進に関する情報を知るにはどのような方法があるかを知る。 ○読書推進に関する取組について、複数の資料を読んで、図にまとめるという学習の見直しをもつ。 		情報を知る方法を学ぶとともに、読書推進に関する取組について、複数の資料を読んで図にまとめるという学習の見直しをもつ。	
2	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが住んでいる市の図書館に関する新聞記事について、見出し、リード文、本文がどのような構成になっているのかを探る。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○記事中の関連する語句と語句に印を付けるなどして、情報と情報との関係を探る、分かったことを整理して簡単な図にまとめる。 			
4	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめたものを交流し、よき点を伝えあう。 			
5	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ、自分たちが住んでいる市の読書推進について書かれた複数の文章を読み、図にまとめる。 			
6	<ul style="list-style-type: none"> ○図にまとめたものを交流し、文章にまとめる。 ○学習の振り返りを行う。 			

各教科等の見方・考え方を記載

単元デザイン例を作成するにあたっての主体的・対話的で深い学びの実現に向けたポイントを記載

単元名、単元の目標を記載

授業の中における子どもの学びの姿を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学びごとにピクトグラムをあてはめました。

吹き出しには、単元デザインの中で特に重要な学習活動の様子を記述しています。学習の流れを矢印で表したり、重点を置く活動を太枠にしたりして分かりやすくなるよう表しています。

新潟県教育センター「主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック」を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 5年国語】

国語「言葉による見方・考え方」

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

単元デザインのポイント

- ・学習の見直しをもち、一つの新聞記事から情報を捉える活動で身に付けた力を生かして、複数の資料を読んで活用するという学習の流れを重視した。

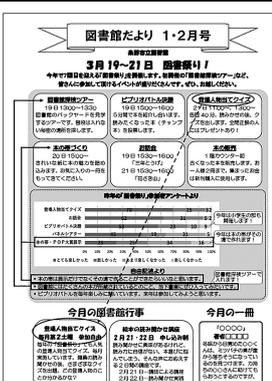
1 単元名

読書に関する情報を読んで活用しよう

2 単元の目標

- (1) 文章の構成について理解することができる。
- (2) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。
- (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
- (4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全6時間）

時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1	<ul style="list-style-type: none"> ・読書月間に際して、自分たちの読書生活や自分たちの学校の取組を振り返る。 ・自分たちが住んでいる市の読書推進に関する情報を知るにはどのような方法があるかを知る。 ・読書推進に関する取組について、複数の情報を読んで、図にまとめるという学習の見直しをもつ。 	 見直しを持つ	情報を知る方法を学ぶとともに、読書推進に関する取組について、複数の情報を読んで図にまとめるという学習の見直しをもつ。	 知識・技能を習得する
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住んでいる市の図書館に関する新聞記事について、見出し、リード文、本文がどのような構成になっているのかを捉えながら読む。知識・技能① ・記事中の関連する語句と語句に印を付けるなどして、情報と情報との関係を捉え、分かったことを整理して簡単な図にまとめる。知識・技能② <p>主体的に取り組む態度</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 単元の学習評価例を P.32 より記載 </div> 	 粘り強く取り組む	 協働して課題解決する	 自分の考えを形成する
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が用意した、自分たちが住んでいる市の読書推進について書かれた複数の文章を読み、図にまとめる。思考・判断・表現 ・図にまとめたものを交流し、文章にまとめる。 ・学習の振り返りを行う。 	 振り返って次へつなげる	 多様な情報を収集する	 知識・技能を活用する

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校国語を参考に作成

【単元デザイン例 中学校 3年社会】

社会「社会的な事象の地理的な見方・考え方」（地理的分野）

社会的な事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。

単元デザインのポイント

- ・単元を貫く問いを設定し、Step.1～3で身に付けた知識・技能を生かしてStep.4で深く考察するという問題解決の学習の流れを重視した。

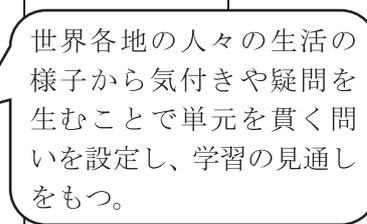
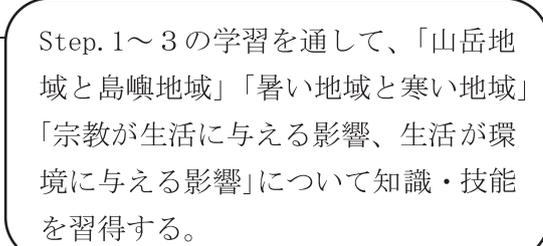
1 単元名

世界の各地の人々の生活と環境

2 単元の目標

- (1) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の気温や降水量、標高などの自然的条件及び、宗教や歴史的背景、科学技術の発展などの社会的条件から影響を受けたり、その場の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解する。
- (2) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性ととともに、世界の主な宗教の分布について理解する。
- (3) 「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか。また、なぜそれは変容するのか」を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に各地の人々の生活の特色やその変容の理由を、主体的に追及しようとする態度を養う。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全8時間）

次(時数)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
単元の導入 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で登場する各地の人々の生活の様子を表すいくつかの景観写真から、気付くことや疑問を出し合い、ワークシートに記述するとともに、単元の学習の見通しをもつ。 <p>単元を貫く問い 「なぜ世界各地では人々の生活に多様な特色が見られるのか。また、なぜ変容するのか」</p>	 見通しを持つ	 <p>世界各地の人々の生活の様子から気付きや疑問を生むことで単元を貫く問いを設定し、学習の見通しをもつ。</p>	
1 (2)	<p>【Step. 1】 山岳地域と島嶼地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観写真や雨温図を用いて、気候の特色をつかむ技術を身に付ける。 ・太平洋の島々とアンデス山脈の高山地域に居住する人々の生活を例に、自然環境の影響を受けた生活の様子が見られることを考察する。 	 粘り強く取り組む	 多様な情報を収集する	 知識・技能を習得する
3 (3)	<p>【Step. 2】 暑い地域と寒い地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゾン川流域と北極海沿岸に居住する人々の生活を例に、自然環境の特徴を生かした生活の工夫が見られることを考察する。 			
4 (4)	<p>【Step. 3】 宗教が生活に与える影響、生活が環境に与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北アフリカの砂漠周辺に居住する人々の伝統的な生活の様子や宗教分布図などの資料を読み取り、そのような生活が営まれる理由を、自然環境や社会環境との関わりから考察する。 ・宗教分布図を活用し、どの地域にどのような宗教が分布しているかを読み取るとともに、資料をもとに宗教と生活の関わりを理解する。 ・緯度や標高、降水量の違い等を基に、世界各地の気候が大まかに区別されることを理解する。 	 <p>Step.1～3の学習を通して、「山岳地域と島嶼地域」「暑い地域と寒い地域」「宗教が生活に与える影響、生活が環境に与える影響」について知識・技能を習得する。</p>		

2 (5)	<p>【Step. 4-1】異なる環境下での類似の生活の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる自然環境ながら、同様の住居に住むなど似通った生活の工夫が行われている事例（環境の異なるマレーシアとシベリアで同様の高床式住宅に居住）を基に、自然環境と生活とのかかわりを考察する。 		 共に考えを創り上げる	 知識・技能を活用する
(6) (7)	<p>【Step. 4-2】類似の環境下での異なる生活の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 類似の自然環境ながら、異なる生活の工夫が行われている事例（同じ温帯の日本、トルコ、ドイツで独自の食生活）を基に、各自これまでの単元の学習成果を活用して追求する活動を通して、同じ気候条件の中にも降水量の違いや宗教の違い等の要因から、生活の様子が異なってくることを考察する。その後、追求した情報を持ち寄り、班で話し合っってホワイトボードに書いて発表する。 	<p>Step. 1～3 で身に付けた知識・技能を活用し、「異なる環境下での類似の生活の工夫」や「類似の環境下での異なる生活の工夫」について深く考察をする。</p>		
3 (8)	<p>【Step. 5】学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界各地の人々の多様な生活についてまとめるとともに、単元冒頭の問いへの答えを、学習成果を踏まえて考え、学習を振り返る。 単元の学習を振り返って、関心をもちさらに調べたいことや、よく分からなかったこと、学習に向かう姿勢などを自己評価し、ワークシートに記入する。 	 振り返って次へつなげる	<p>単元の問いに立ち返り世界各地の人々の多様な生活をまとめるとともに学習を振り返る。</p>	 思考して問い続ける

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 6年算数】

算数「数学的な見方・考え方」

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

単元デザインのポイント

- ・対話の視点を明確にすることにより、協働して課題を解決し、知識・技能を活用できることに重点をおいた。

1 単元名

分数のわり算

2 単元の目標

- (1) 除数が分数の場合の除法の意味について理解しているとともに、その計算ができる。また、分数の除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解している。
- (2) 数の意味と表現、除法に関して成り立つ性質に着目し、分数の除法の計算の仕方を多面的に捉え考えることができる。
- (3) 学習したことをもとに、分数の除法の計算の仕方を考えたり、計算の仕方を振り返り多面的に検討したりしようとしている。また、整数や小数の乗法や除法を分数の乗法の計算にまとめることよき気づき、学習に生かそうとしている。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全8時間）

次(時数)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を立式し、立式の理由を説明する。 ・序数が単位分数である場合の除法の計算の仕方について説明する。 	 興味や関心を高める	 互いの考えを比較する	自分の考えを説明することで、今までの学習との違いに気付かせる。
(2) (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・除数が分数である場合の除法の計算について説明する。 ・分数の除法について、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解する。 ・分数の除法は、序数の逆数をかければよいことが分かる。 	 振り返って次へつなげる	逆数をかければ計算できるという考え方から、整数や帯分数の場合を提示し、新しい思考を促す。	 知識・技能を習得する
(4) (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・(真分数) ÷ (真分数) の計算に取り組む(計算途中で約分する場合も含む)。 ・(整数) ÷ (分数) の計算や帯分数を含む除法の計算について、(真分数) ÷ (真分数) の計算の仕方をもとに説明する。 ・3口の分数の乗除混合計算に取り組む。 	自分や友達の考えの共通点や相違点から、考えを整理し、課題解決していく。	 協働して課題解決する	 知識・技能を活用する
2 (6) (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係を適切に捉え、分数の乗除法の演算決定し、その理由を説明する。 ・分数で表すと計算できることを理解し、計算する。 	 粘り強く取り組む	学習してきたことを活用して様々な問題に取り組む。	 思考して問い続ける
3 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題に取り組み学習内容を振り返る。 ・自分の課題を確認する。 			

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校算数を参考に作成

【単元デザイン例 中学校 3年理科】

理科「理科の見方・考え方」（「地球」を柱とする領域）

- 見方
自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉えること。
- 考え方
探究の過程を通じた学習活動の中で、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて、事象の中に何らかの関連性や規則性、因果関係等が見いだせるかなどについて考えること。

単元デザインのポイント

- ・習得した知識・技能を存分に活用し、「見方・考え方」を働かせながら、知識・技能を概念化させたり自分の考えを形成したりすることで、深い学びへとつなげる。(1②③④)

1 単元名

天体の動きと地球の自転・公転

2 単元の目標

- (1) 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
- (2) 天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。
- (3) 天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養うこと。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全9時間）

次(時数)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び	
1 (1)	・天球を使った天体の位置の表し方を知る。 ・地球上の一点で、方位と時刻がどうなっているかを知る。	 興味や関心を高める	 ①習得した知識・技能を活用して、天球上の天体の動きを考えさせる。	 知識・技能を習得する	
(2)	・太陽の日周運動の観察を計画する。 (次の授業までに、観察を行う。)	 見通しを持つ		 ②本単元の以降の課題も、習得した知識・技能を活用することで解決できそうであることに気付かせる。	 知識・技能を活用する
(3)	・透明半球に付けた点を結び、太陽が動いた軌跡を表す。 ・観察記録から、太陽の一日の動き方の特徴を見いだす。	 振り返って次へつなげる	 多様な情報を収集する		 思考して問い続ける
(4)	・コンピュータシミュレーションや写真を用いて、星の一日の動きを透明半球にまとめる。				
(5)	・相対的な動きによる見え方を理解する。 ・相対的な動きによる見え方と地球の自転とを関連付けて、モデルを用いて地球の自転の向きを推論する。	 ③習得した知識・技能を活用し「見方・考え方」を働かせながら、実験結果を分析・表現させる。	 思考を表現に置き換える	 知識や技能を概念化する	
(6)	・星座の年周運動のモデル実験から、公転によって、季節ごとに地球での星座の見え方が変わることを見いだす。				
(7)	・天球上での星座や太陽の1年間の動き方について理解する。 ・コンピュータソフトなどで、時間を設定し、シミュレーションしながら星座の位置を確認する。	 ④「見方・考え方」を働かせながら、情報を精査して考えを形成させたり、問題を見いだして解決策を考えさせたりする。	 自分の考えを形成する		
(8)	・季節ごとの地球への太陽の光の当たり方の変化をモデル実験で調べる。 ・南半球では、太陽の光の当たる角度の変化が北半球と逆になることを見いだす。				
(9)	・地球儀などのモデルを使い、地軸の傾きと太陽の光の当たり方と、昼と夜の長さの関係を見いだそうとする。				

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校理科を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 2年生生活】

生活「身近な生活に関わる見方・考え方」

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。

単元デザインのポイント

- ・身近な教材に気付かせることで、興味関心を高めることにしっかり意識する。
- ・3次で生きものについて知ることに重点を置くことで、命を大切にすることを育むことにつなげる。

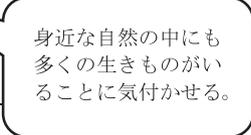
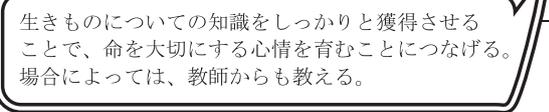
1 単元名

めざせ 生きものはかせ

2 単元の目標

- (1)身近な自然の場所に出かけ、地域の生きものや自然に興味を持つことができるようにする。
- (2)生きものを育てることを通して、生きものの育つ様子に関心をもち、生きものも自分と同じように成長し、生きていくことに気付き、命を大切にすることができるようにする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全11時間）

次(時数)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家で飼っている生き物を発表する。 ・学校近くの自然の中にどんな生きものを見つけたことがあるかを発表する。 ・どんなところでどんな生きものを見つけたか、飼いたいかを話し合う。 	 <p>興味や関心を高める</p>	 <p>身近な自然の中にも多くの生きものがあることに気付かせる。</p>	
2 (2) (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・生きもの探しに行く場所や準備について話し合う。 ・安全に気を付けて生きもの探しに出かける。 ・友達と情報交換しながら生きものを探す。 ・捕まえた生きものを持ち帰る。 	 <p>見通しを持つ</p>		
3 (4) (5) (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものすみかについて話し合う。 ・飼い方について、生きものに詳しい人に聞いたり、図鑑や本を見たりして調べる。 ・生きものに合ったすみかや餌を準備する。 ・すみかを作って育てる。 	 <p>粘り強く取り組む</p>	 <p>多様な情報を収集する</p>	 <p>知識・技能を習得する</p>
4 (7) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が発見した生きもの不思議や秘密を話し合う。 ・飼っている生きものをよく観察して、不思議や秘密探しをする。 ・自分の見つけた不思議や秘密を、カードなどに書いて友達に紹介する。 	 <p>生きものについての知識をしっかりと獲得させることで、命を大切にすることを育むことにつなげる。場合によっては、教師からも教える。</p>		
5 (9) (10) (11)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の飼っている生きものを紹介し合うことについて話し合う。 ・発表の準備をする。 ・クイズや発表・新聞・身体表現など、さまざまな方法で発表する。 ・活動を振り返り、発表会の感想を伝えたり、生活科ノートに記録したりして、飼った後は生きものをどうするのかを話し合う。 	 <p>振り返って次へつなげる</p>	 <p>互いの考えを比較する</p>	 <p>自分の考えを形成する</p>

【単元デザイン例 小学校 1年音楽】

音楽「音楽的な見方・考え方」（小学校）

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

単元デザインのポイント

・第1次の「音楽づくり（音遊び）」や第2次の「鑑賞」で学んだことを活用して、友達と協働しながら即興的な「音楽づくり」に取り組む流れを重視した。

1 題材名

がっきのおとをたのしもう

2 題材の目標

- (1) 打楽器の音の特徴や、曲想と打楽器の音色やリズムなどの特徴との関わりに気付くとともに、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。
- (2) 打楽器の音色を生かした音遊びを通して音楽づくりの発想を得たり、様子を表す音楽の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 打楽器の音色やリズムに興味をもち、協働して音遊びをしたり楽しく音楽を聴いたりする学習に取り組む、生活の中の様々な音や音楽に親しむ。

3 題材の指導計画と学びの実践ポイント（全5時間）

時	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	○音遊びを通して、身近な打楽器の音色や音の特徴に気付く。「音楽づくり（音遊び）」 ・教師が鳴らしたウッドブロックやトライアングルの音を聴き、音に合わせて体を動かす。 ・一人一つの打楽器をもち、順番に音を鳴らしたり、友達が打った音を模倣したりする。 ・ワークシートに自分が見付けた「すてきなおと」を絵や言葉で書き、紹介し合う。	 興味や関心を高める	 思考を表現に置き換える	 知識・技能を習得する
2 (2)	○曲想と打楽器の音色やリズムなどの特徴との関わりに気付いて聴く。「鑑賞」 ・「シンコペーテッド・クロック」のはじめの部分に出てくるウッドブロックの音を聴き取り、それに合わせて体を動かす。 ・なかの部分のトライアングルの音を聴き取る。 ・ウッドブロックやトライアングルを打つまねをしながら、曲全体を通して聴く。	 粘り強く取り組む	 互いの考えを比較する	第1次の音遊び、第2次の時計を表す音楽を鑑賞した学習を基にして、即興的に音を選んだりつなげたりして表現させる。
3 (3)	○様子を表す音楽の楽しさを見いだしながら、曲全体を味わって聴く。「鑑賞」 ・時計の様子が音楽のはじめ・なか・おわりでどのように変わるか、想像しながら聴く。 ・音楽の特徴から想像した時計の様子をワークシートに書く。 ・「シンコペーテッド・クロック」の楽しいところや面白いところを発表し合う。			
4 (4)	○時計の様子を思い浮かべながら、即興的に表現し、音楽づくりの発想を得る。「音楽づくり」 ・歌詞が表す様子を思い浮かべながら「とけいのうた」や「大きな古時計」を歌う。 ・時計のお話の絵本、時計のイラストや写真を見て、どんな音が聞こえるかを話したり、声や楽器で表したりする。 ・2～3人グループで自分たちの表したい時計を決め、打楽器で音を選んだりつなげたりする。	 振り返って次へつなげる	 共に考えを創り上げる	 知識・技能を活用する
5 (5)	○音楽づくりの発想を生かし、即興的に表現する。「音楽づくり」 ・グループで即興的に打楽器の音を組み合わせ、表したい時計の音楽を表現する。 ・つくった時計の音楽を発表し合い、友達の表現のよい点について伝え合う。			

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 4年図画工作】

図画工作「造形的な見方・考え方」（小学校）

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

単元デザインのポイント

・飾りたい場所に合うように花の形を考えたり、和紙を触り、握ったり折ったりしながら表したい形を見付けたりするという視点を題材全体を通してもてるようにした。

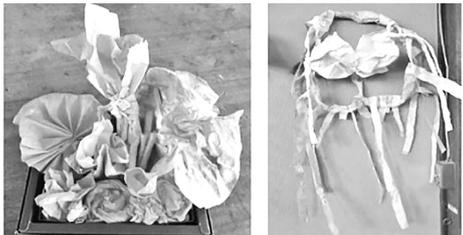
1 題材名

花に心をこめて

2 題材の目標

作品を飾りたい場所の様子や和紙を染めて感じたことから、表したいことを見付け、紙類や絵の具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表すとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、進んで染めた和紙で花を表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。

3 題材の指導計画と学びの実践ポイント（全6時間）

時数	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
(1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> 作品を飾りたい場所の様子から、どんな花を表していきたいか考え、材料の和紙を絵の具で染める。 (児童の反応例) 「玄関でお客さんを迎えるから太陽のような明るい色にしようかな。」 「たたみの部屋に合うように、シンプルで落ち着いた色にしようかな。」 	 興味や関心を高める	 共に考えを創り上げる	 新たなものを創り上げる
飾りたい場所に合うようにという視点 		家のどこに飾るか考え、友達と考えを交流することで、自分の表したい花の色になるようにイメージをふくらませて和紙を染めさせる。		
		 粘り強く取り組む	 思考を表現に置き換える	 自分の考えを形成する
(3) (4)	<ul style="list-style-type: none"> 染めた和紙の色や質感を生かして、飾りたい場所に合う花をどのように表すかを考えて表す。 	花にどんな心を込めたいのか、どんな花の形にするか、全体をどんな感じにするか、場所に合うようにどんな飾り方にするのかなどを考えながら表現させる。		
(5)	<ul style="list-style-type: none"> 場所に合う表したい花になるように表し方を工夫して表す。 	家で飾っている作品を見合うことで、色の生かし方や花の形の面白さを感じ取り、自分の作品と比べて感じ方を広げてさせる。		 思考して問い続ける
(6)	<ul style="list-style-type: none"> 学習後に家に持ち帰って家族と鑑賞をする。写真を撮ってもらって印刷したり、飾った様子の絵をかいたりする。その写真や絵から感じたことや考えたことを交流する。 	 振り返って次へつなげる	 互いの考えを比較する	 自分の思いや考えと結び付ける

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校図画工作を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 5年家庭】

家庭「家庭の営みに係る見方・考え方」

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

単元デザインのポイント

- ・学習後に家庭で調理をすることを目標にすることで、主体的な学びを促す。
- ・実習ごとに活動を振り返り、家庭での調理への改善点を考えさせる場を設ける。

1 題材名

おいしく作ろう 伝統的な日常食 ごはんとみそ汁

2 題材の目標

- (1) 食事の役割と食事の大切さ、我が国の伝統的な配膳の仕方、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。
- (2) おいしく食べるために米飯及びみそ汁の調理計画や調理の仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、食事の役割、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

3 題材の指導計画と学びの実践ポイント（全10時間）

次(時数)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の食事を振り返り、食事の役割について話し合う。 ・外国の食卓と日本の食卓の写真を比較し、ご飯とみそ汁を日常的に食べている理由について考える。 	 <p>興味や関心を高める</p>	<p>家庭でご飯とみそ汁の調理の仕方を調べ、それを交流することで考えの違いに気付かせる。</p>	
2 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で調べたことをもとに、ご飯とみそ汁の調理の仕方について、気付いたことや疑問を話し合う。 ・家族と食べるおいしいごはんオリジナルみそ汁を作るための課題を考える。 	 <p>見通しを持つ</p>	 <p>互いの考えを比較する</p>	
3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで鍋を用いて炊飯し、米の変化を観察し、記録する。 	<p>学習後に自分一人で調理ができるように、グループやペアで協力して助け合いながら調理を行わせる。</p>	 <p>協働して課題解決する</p>	 <p>知識・技能を習得する</p>
4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・配膳の仕方を確認し、試食する。 ・米や水の分量、ご飯の調理の仕方（炊飯の一連の手順）を振り返る。 			
5 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・大根、油揚げ、ねぎのみそ汁の実の切り方や入れ方について、説明の動画を視聴し、考えたことを発表する。 			
6 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・だしのとり方を示範により確認する。 ・ペアでみそ汁を調理する。 ・みそ汁の調理の仕方を振り返る。 			
7 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・「オリジナルみそ汁（試し作り）」について材料の分量、実の組み合わせや切り方を考える。 ・調理台や加熱用調理器具の効率のよい使い方を確認し、各自が試し作りの調理計画を立てる。 	<p>実習を通して身に付けた知識・技能を活用して、自分なりの「オリジナルみそ汁」を考えさせる。</p>	 <p>自分の考えを形成する</p>	
8 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が調理計画に基づきオリジナルみそ汁の調理（試し作り）をする。 	 <p>共に考えを創り上げる</p>	 <p>知識・技能を活用する</p>	
9 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組で実践交流を行い、気付いたことを実践記録表に記入する。 			
10 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を振り返り、ペアで改善点を確認する。 ・家庭でご飯とオリジナルみそ汁を一人で調理することを想定し、できあがりの時間を考え、調理計画を立てる。 ・グループで交流し、調理計画を改善する。 			 <p>自分と結び付ける</p>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校家庭を参考に作成

保健体育「体育分野の見方・考え方」

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。

単元デザインのポイント

・ICT等を活用することにより、課題を発見し、仲間との対話を通して、自己の思考を広げること
で、深い学びへとつなげる。

1 単元名

器械運動 マット運動

2 単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。
- (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 器械運動に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全8時間）

次(時刻)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び	
1	基本的な技の習得 ・前転グループの技の習得 ・開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや手の着き方などの条件を変えて回る。 ・後転グループの技の習得 ・開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや手の着き方などの条件を変えて回る。 ・ほん転技群の技の習得 ・開始姿勢や終末姿勢、組み合わせの動きや手の着き方などの条件を変えて回る。 ・平均立ち技群の技の習得 ・姿勢、体の向きなどの条件を変えて静止する。	 見通しを持つ	小学校の学習内容を確認し、小学校で学んだ知識や技能を活用して、取り組ませる。	 知識・技能を習得する	
2		 粘り強く取り組む		 知識・技能を活用する	
3		ICTを適切に活用することにより、課題を発見し、課題解決に向けて話し合いや、課題となる部分を仲間伝えることができるようになる。		 互いの考えを比較する	 思考して問い続ける
4				 多様な手段で説明する	 知識や技能を概念化する
5	課題解決に向けた練習 ・発表会に向けて自己の課題となる技を選択する。 ・課題解決のためにグループごとに練習をする。その際、タブレットで練習の様子を撮影し、お互いに技を見せ合い、課題解決に向けて話し合い、練習方法を考える。 ・課題解決に向けた練習方法を工夫して行う。	協働して課題解決する	課題解決に向けた練習方法をグループ内で話し合い、伝えあう。		
6				発表会に向けた練習を行う。 グループごとに仲間の課題や、技の出来栄を伝え合う。	
7	学習のまとめ ・発表会本番 ・お互いの発表を見て、演技を認め合い、評価し合う。 ・学習のまとめを振り返りシートに記入する。	 振り返って次へつなげる			
8					

【単元デザイン例 小学校 5年外国語】

外国語「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

単元デザインのポイント

・コミュニケーションの目的を明確にすることにより、興味や関心を高め、協働して課題を解決することに重点をおいた。

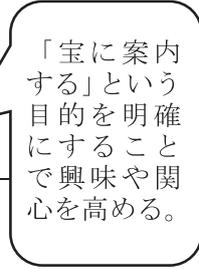
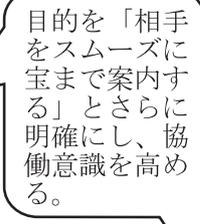
1 単元名

「Where is your treasure?」

2 単元の目標

- (1) 建物や物がある場所、道案内の言い方を理解することができる。また、単語を書き写すことができる。
- (2) 宝物への道案内をすることができる。
- (3) 他者に配慮しながら、宝物へ道案内をしようとしている。

3 指導計画と学びの実践ポイント（全8時間）

次(順)	学習内容	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
1 (1) (2) (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・道案内の会話を聞き、基本的な言い方に慣れる。 ・コマンドメモを活用して、道案内をする。 ・宝物のありかを教えるゲームで、自分の考えを相手に伝える。 	 興味や関心を高める	 「宝に案内する」という目的を明確にすることで興味や関心を高める。	 知識・技能を習得する
2 (4) (5) (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューをして、位置や場所についての会話に慣れ親しむ。 ・グループで宝物のありかを示すコマンドメモを作り、ほかのグループと宝物のありかを当てるゲームをして、道案内の質問の仕方や答え方に慣れる。 ・道案内の英語がどんな意味かを考えて、声に出して読む。 ・地図を見て、自分の宝物のありかを決め、コマンドメモを作成する。 	 粘り強く取り組む	 協働して課題解決する	 目的を「相手をスムーズに宝まで案内する」とさらに明確にし、協働意識を高める。
3 (7) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の宝箱のありかの中身について発表する。 ・友だちの宝箱の場所と中身についてわかったことを書く。 ・グループで協力して、単元で学んだ単語のカードを選び、書き写す。 	 自分と結び付ける	 多様な手段で説明する	 自分の思いや考えと結び付ける

【単元デザイン例 小学校 総合的な学習の時間】

総合的な学習の時間「探究的な見方・考え方」（小・中学校）

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること。

単元デザインのポイント

・指導計画に「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つの学習過程を位置付けた。

1 単元名

川の美しさを取り戻そう（環境）

2 単元の目標

住吉川的环境について調べたり、その保全に向けた活動に協働して取り組んだりすることを通して、環境保全に関する具体的な取組について考え、環境を守る活動が続ける人々や組織の意図や願いを理解するとともに、住吉川とのつながりを意識しながら行動したり生活したりできるようにする。

3 単元の指導計画と学びの実践ポイント（全35時間）

主な活動	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
<p>1 住吉川の様子をさぐる（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の中流、下流、上流のそれぞれを探検し、それぞれの特徴をまとめる。 ホテルがある上流の様子と、油や泡、ゴミなどがある中・下流の様子を比較する。 比較から生じたギャップから問題状況を捉え、「川の美しさを取り戻そう」という単元を通じた課題を設定する。 <p>「課題の設定」では、児童が問題状況の中から課題を発見して設定し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。</p>	 興味や関心を高める	 互いの考えを比較する	 自分の思いや考えと結び付ける
<p>2 住吉川の美しさを取り戻すための活動を考え実行しよう（15）</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の美しさを取り戻すための活動を進めるために、川の調査や周辺住民へのインタビューから必要な情報を集める。 川の環境を守る取組を進めている「ホテルを増やす会」の人の話を聞く。 調査したことや聞いたこと等を整理して、川の美しさを取り戻すための具体的な活動を考える。 川の美しさを取り戻すために考えた活動を実行する。 <p>「情報の収集」では、児童が手段を選択して必要な情報を収集し、分析する。</p> <p>「整理・分析」では、児童が課題解決を目指して「考えるための技法」を活用し、事象を比較したり、関連付けたりして考える。</p>	 見通しを持つ	 互いの考えを比較する	 自分の思いや考えと結び付ける
<p>3 地域とともに活動を行い、これからの自分たちの行動について考えよう（12）</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な人や組織が住吉川的环境保全に関わっていることを振り返る。 地域の人に川への関心を高めってもらうための活動を企画する。 川の環境を保つために、家庭でできる川を汚さない方法などについて、ポスターやチラシを作成して地域の人に伝える活動に取り組む。 今後の自分たちと地域との関わりや環境との関わりについて、これまでの活動を振り返ってまとめる。 <p>「まとめ・表現」では、児童が相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現する。</p>	 粘り強く取り組む	 多様な情報を収集する	 知識・技能を活用する

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間を参考に作成

【単元デザイン例 小学校 特別活動】

特別活動「集団や社会の形成者としての見方・考え方」

各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結びつけること。

単元デザインのポイント

・クラブ活動の終末部にクラブ発表会を設定することで、目標をもって意欲的に取り組める環境づくりを行う。

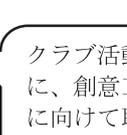
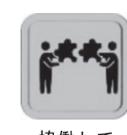
1 クラブ名

ダンスクラブ

2 クラブ活動で育成を目指す資質・能力

- (1)同好の仲間で行う集団活動を通して興味・関心を追求することのよさや意義について理解するとともに、活動に必要なことを理解し活動の仕方を身に付けるようにする。
- (2)共通の興味・関心を追求する活動を楽しく豊かにするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したり、人間関係をよりよく形成したりすることができるようにする。
- (3)クラブ活動を通して身に付けたことを生かして、協力して目標を達成しようとしたり、現在や将来の生活に自分のよさや可能性を生かそうとしたりする態度を養う。

3 クラブ活動の年間計画と実践のポイント

	主な活動	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
一学期	<p>○クラブの計画や運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間活動計画、組織づくり ・異年齢を基本にしたグループ編成 <p>→どのようにしたらみんなで仲良く活動ができるかグループで話し合う。</p> <p>→どんなダンスを踊りたいか話し合い、クラブ発表会で踊るダンスを考える。</p> <p>→練習の計画を立てる。</p> <p>○クラブを楽しむ活動</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ダンスクラブの活動の流れ</p> <p><計画> ・練習計画の確認をする。 ・振り付けを検討する。</p> <p><練習> ・はじめのあいさつ、出席確認 ・グループ別練習 ・全体練習</p> <p><振り返り> ・活動を振り返る。 ・次の活動の計画を立てる</p> </div>	<p> 見通しを持つ</p> <p> 興味や関心を高める</p>	<p> 共に考えを創り上げる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>一人一人の思いや願いを大切に、全員が意欲的に取り組める活動を考えさせる。</p> </div>	<p> 知識・技能を習得する</p> <p> 新たなものを創り上げる</p>
二学期	<p>○クラブの成果の発表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クラブ発表会の流れ</p> <p><計画> ・発表会の内容、役割分担を確認する。 ・リハーサル（休み時間等）</p> <p><発表会> ・クラブ長がクラブ活動内容を紹介する。 ・グループリーダーからダンスの見てほしいところを紹介する。 ・ダンス発表</p> <p><振り返り> ・クラブ発表会を振り返り、クラブ活動カードに記入する。 ・次年度に向け、成果と課題を話し合う。</p> </div>	<p> 粘り強く取り組む</p>	<p> クラブ活動を楽しむために、創意工夫をして目標に向けて取り組む意識を高めさせる。</p>	
三学期		<p> 振り返って次へつなげる</p>	<p> 協働して課題解決する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クラブ活動の目標に立ち返って活動を振り返り、協力し合うことのよさや達成感を感じさせる。</p> </div>	<p> 知識・技能を活用する</p>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校特別活動を参考に作成

道徳科における主題や題材の内容・時間のまとまりを見通した実践と教科等横断的な指導

道徳科については、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を、一定のまとまりの中で、児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を適切に設定しつつ、学習活動全体を通して見取ることが求められています。そのため、道徳科の目標に向け、年間 35 時間の授業を主題や題材の内容・時間のまとまりを見通して組み立てていくことが大切になります。

主題や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】小学校第 6 学年（光村図書 版）

【主題名】本当の友達とは？ ～共生～ （4 時間扱い）

使用教材：「コスモスの花」「みんな、おかしいよ」「どうすればいいの」「ロレンゾの友達」

【養う道徳性 ※関連する内容項目等】

・真の友情とは、互いに磨き合い、高め合う友達関係であり、相手の立場に立って考えながら互いの人格の尊重を基盤としており、そのような人間関係を築いていこうとする道徳的態度を養う。

・ B 友情、信頼 B 相互理解、寛容

【主な学習活動と留意点】

児童生徒の実態 ※肯定的な面やそれを更に伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉え方

趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作る傾向が出てきており、そうでないものを遠ざけようとするところがある。

働かせる見方・考え方

様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、自己の人間としての生き方について考えること。

	学習活動	配慮点（各教科等、体験活動等との関連）
<p>問題意識を共有する</p> <p>自分自身との関わりで、多面的・多角的に考え合う</p> <p>生き方を考え深め合う</p>	<p>1 教材名「コスモスの花」 B 友情、信頼 （6月）(1)</p> <p>中心的な発問</p> <p>【「やめるよ」とぼくに思わず声を出させたものは何か？】</p> <p style="text-align: right;">板書の工夫 話し合いの工夫</p> <p style="text-align: center; background-color: #cccccc;">主題「本当の友達ってなんだろう？」の設定</p>	<p>悩みや葛藤等心の揺れのある教材と出会うことで、友達との向き合い方に迫る主題を設定する。</p> <p>学校行事 (3) 健康安全・体育的行事 …運動会</p>
	<p>2 教材名「みんな、おかしいよ」 B 相互理解、寛容 （7月）(1)</p> <p>中心的な発問</p> <p>【「ユリに対して『ごめんね』と真紀に言わせたいものは何か？】</p> <p style="text-align: right;">役割演技の工夫 発問の工夫</p>	<p>生活経験に近い教材から、「何が問題なのか」自分自身との関わりで考える。</p> <p>学校行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事…遠足</p>
	<p>3 教材名「どうすればいいの」 B 相互理解、寛容（10月）(1)</p> <p>中心的な発問</p> <p>【私は由希にどんな声をかけたらいでしょうか？】</p> <p style="text-align: right;">役割演技の工夫 話し合いの工夫</p>	<p>「自分だったらどうするのか」友と話し合うことで多面的・多角的に考える。</p> <p>学校行事 (4) 遠足・集団宿泊的行事 …修学旅行</p>
	<p>4 教材名「ロレンゾの友達」 B 友情、信頼 （11月）(1)</p> <p>中心的な発問</p> <p>【もしロレンゾが本当の罪をおかして帰ってきたとしたら、自分は友人としてどうすべきだったのだろうか？】</p> <p style="text-align: right;">板書の工夫 話し合いの工夫</p> <p style="text-align: center; background-color: #cccccc;">主題「本当の友達ってなんだろう？」を自己評価</p>	<p>人間尊重の精神にかなう教材と出会うことで、主題を今後も考え続けられるようにする。</p> <p>学級活動 (2) イよりよい人間関係の形成</p>

次学年へのつながり（児童生徒に願う姿）

いじめがどうしていけないことなのかを理解し、いじめを許さないでいじめに向かっていこうとする心の強さをもつ。

「信州教育の学びの基盤づくり」単元構想シート（長野県教育委員会）より引用

また、年間にわたって位置付けた主題については、各教科等との関連を図ることで指導の効果が高められる場合は、指導の内容及び時期を配慮して年間指導計画に位置付けるなど、具体的な関連の見通しをもつことができるようにすることが大切です。

厚真町立上厚真小学校では、「道徳科と教科等のつながりを意識した授業づくり」を研究の副主題として掲げ、研究に取り組んでいます。学習指導案でも道徳科を中心に作成されており、教科等横断的に指導することで、道徳的価値を実践を通して深められると考えられます。

<厚真町立上厚真小学校 特別活動の学習指導案より>

4 事前・事後の活動（教科等の関連）

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
6月5日	学活「学級会」 席替えの方法を考えよう	「全員が学習に集中できる」 「誰とでも仲良く活動できる」 ことを条件に考えさせる。	◎学級会の流れや、発言の仕方を理解している。 【知識・技能】〈観察〉
6月12日～	国語「聞き取りメモの工夫」	後から見て分かりやすいメモの取り方や、目的に応じたメモの取り方を考えさせる。	◎箇条書きなど、見やすいメモの取り方を理解している。【知識・技能】〈ノート・テスト〉
6月26日	道徳「学級会での出来事」	教材の出来事を、自分事として捉えて考えさせ、自分たちの学級会の取組を見直そうとする態度を育てる。	◎自分とは異なる意見にも耳を傾け、より良い話し合いにしようとする実践意欲をもっている。〈観察・ノート〉
7月7日 (本時)	学活「がんばったね会の内容を決めよう」	事前に議題を提示し、各自で内容を出し合い、班長会（議長・書記を含む）で整理して提案する。	◎理由などを比べ合いながら、条件に合う折衷案や改善案を考え、合意形成を図っている。【思考・判断・表現】〈観察・ノート〉
7月13日	学活「がんばったね会の係分担を決めよう」	前回（本時）の学級会の決定事項を踏まえ、係分担と頑張り認め合う場面を決める。	◎前回の学級会で合意形成したことを尊重しながら、自分が活躍する場面を考えている。【思考・判断・表現】〈観察・ノート〉
8月4日	学活「がんばったね会」	自分の参加の仕方や、これまでの準備等、一連の活動について振り返るとともに、友達の良いところを認め合えるよう助言する。	◎がんばったね会の目的を考え、友達と協力して自分の役割を果たし実践しようとしている。 【主体的に取り組む態度】〈観察〉
2学期	国語「クラスみんなで決めるには」（下巻）	司会グループと参加者の役割や気を付けることを考えさせ、より良い話し合いの進め方やまとめ方を、経験しながら学習させる。	◎互いの意見の共通点や相違点を整理して、話し合いをまとめる方法を理解している。 【知識・技能】〈観察・ノート〉

3 主体的・対話的で深い学びにおける学習評価について

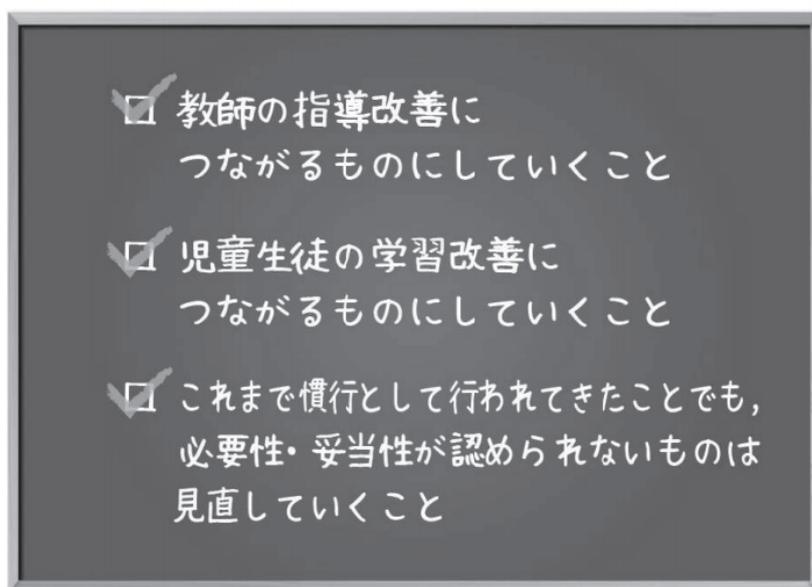
学習評価とは

小学校学習指導要領総則には学習評価について以下のように示されています。

- (1) 児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

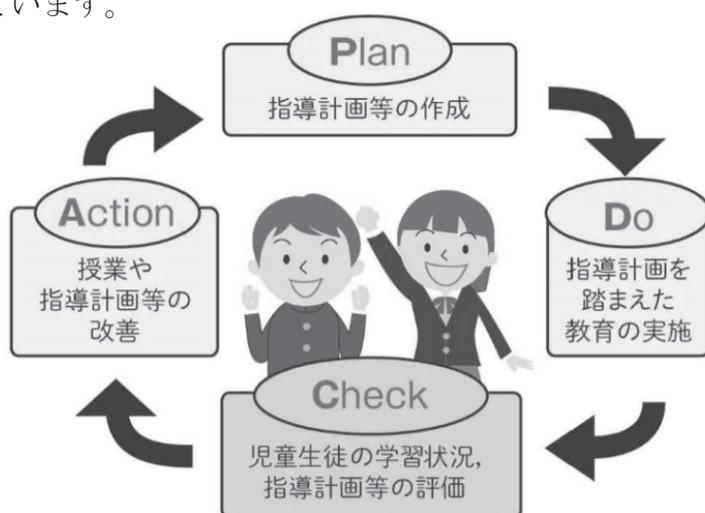
学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、**教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

言い換えると、学習評価は学習指導要領が実現を目指すカリキュラム・マネジメントの推進や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善において重要な役割を果たします。



カリキュラム・マネジメントの一環としての指導と評価

各学校は、日々の授業の下で児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善や学校全体としての教育課程の改善、校務分掌を含めた組織運営等の改善に生かす中で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っています。このように、「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。



カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルの「Check」の部分では、児童生徒の学習状況等を評価し、その結果を「Action」にあるような授業や指導計画等の改善に生かす、つまり児童生徒の学習の改善や教師による指導の改善につなげることが大切です。さらに、こうした改善を踏まえて、「Plan」にあるように各種指導計画が作成され、「Do」にあるように指導計画を踏まえた教育の実施がされていくといった好循環を生み出していくことが大切になります。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

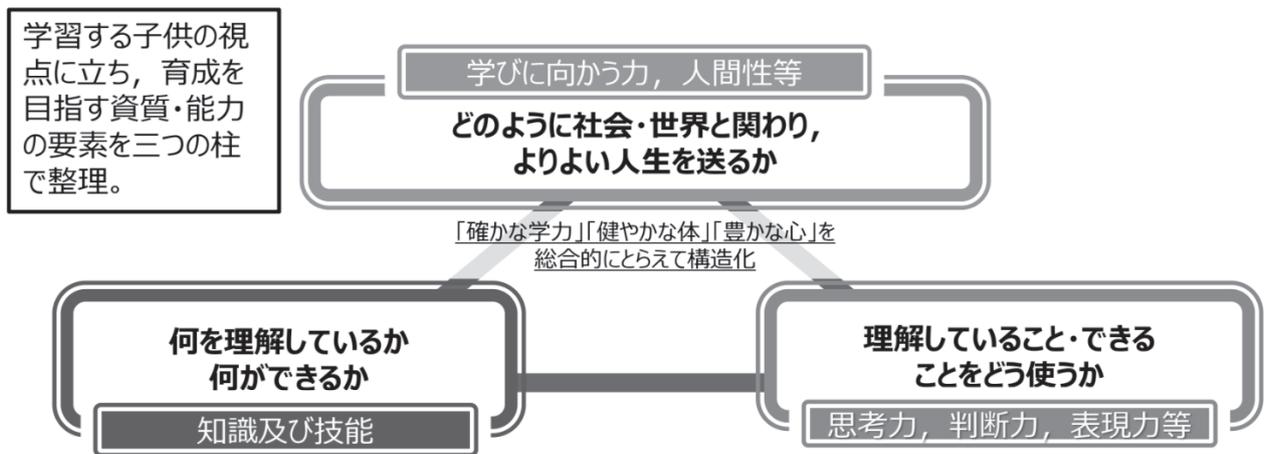
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う上でも、学習評価は重要な役割を担います。日々の授業においても教師が自らの指導のねらいに応じて児童生徒の学習を振り返り、児童生徒の学習や教師による指導の改善の充実を図るといった指導と評価の一体化を進める必要があります。

特に、主体的に学習に取り組む態度の評価にあたっては、例えば児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をするなど、授業改善を図る中で適切に評価できるようにすることが重要です。

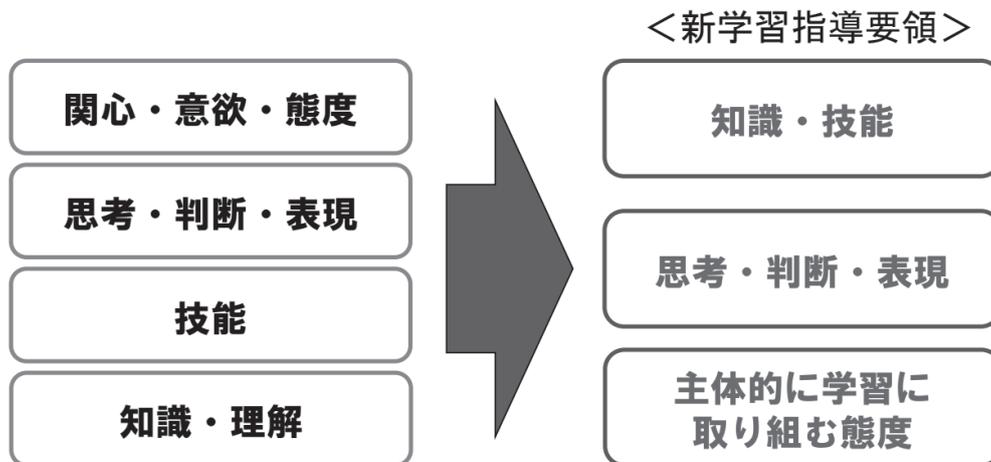
学習評価の基本構造

新学習指導要領においては「目標」「内容」の記述を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱の考え方をふまえて再整理しています。

このように各教科等で何を学ぶのか、それにより児童生徒のどのような資質・能力を身に付けさせるのかを明確にしたことにより、児童生徒にどういった力が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図る、指導と評価の一体化の実現が期待されています。



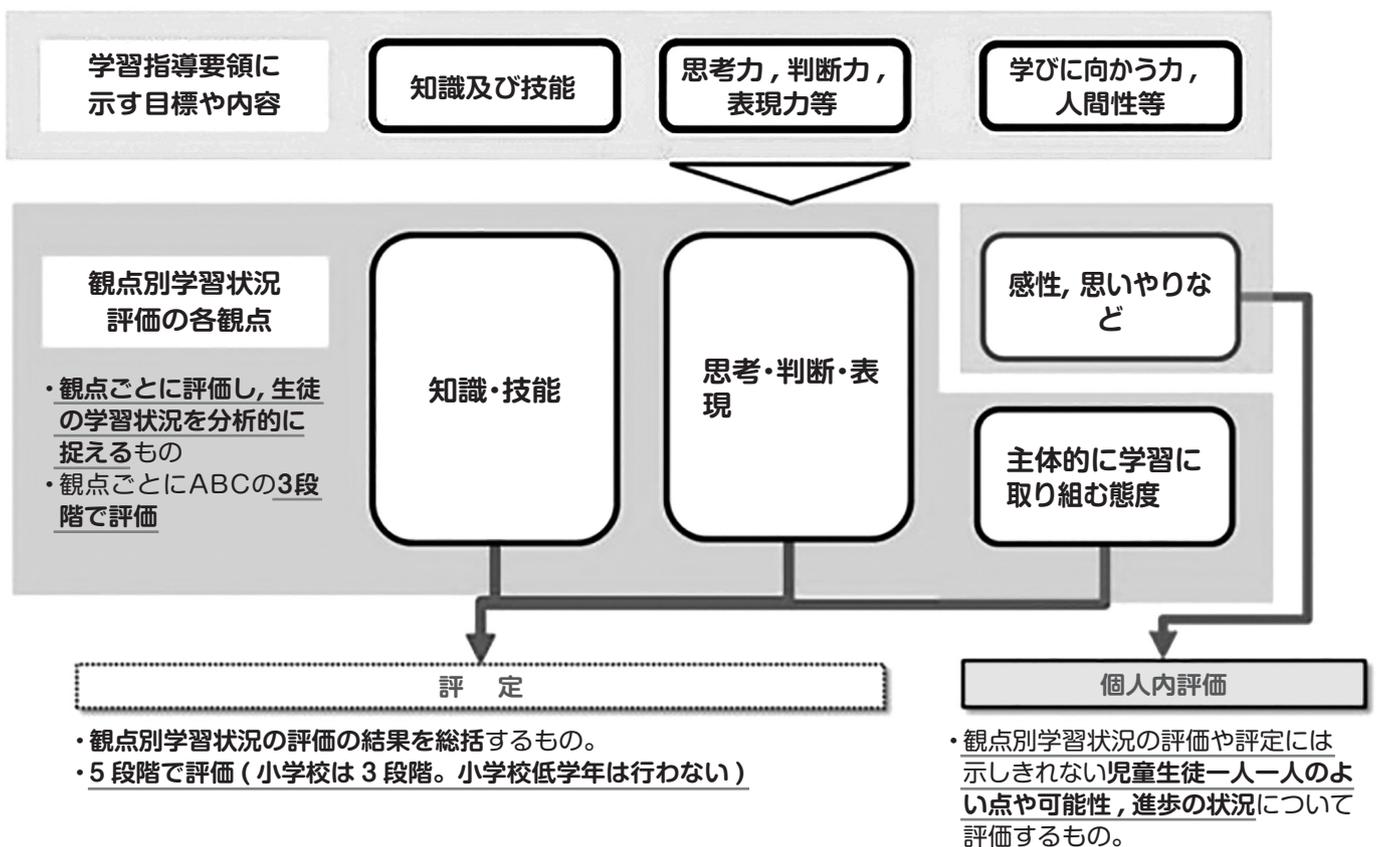
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。



各教科の学習評価の基本構造

各教科の学習評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として行います。目標に準拠した評価は、集団内での相対的な位置付けを評価する、いわゆる相対評価とは異なるものであり、この点も改めて確認したいポイントです。

また、観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況においては、「個人内評価」として実施するものとされています。特に、「学びに向かう力、人間性等」のうち、「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に児童生徒に伝えることが重要であると示されています。



「知識・技能」の評価

- 各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行います。
- それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に、概念等として理解したり技能を習得したりしているかについて評価します。

< 「知識・技能」の評価の工夫（例） >

- （ペーパーテストなど）事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・児童生徒が文章により説明をする場面
 - ・児童生徒によって、観察・実験を行う場面、式やグラフで表現する場面
(各教科等の特質に応じて)

「思考・判断・表現」の評価

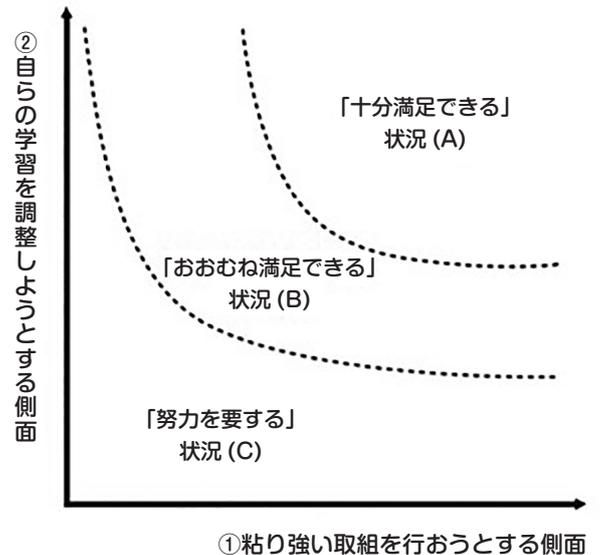
- 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

< 「思考・判断・表現」の評価の工夫（例） >

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価することが求められます。



☆自らの学習を調整しようとする側面とは

→自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

※評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場면을、単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要です。

＜「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫（例）＞

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※主体的に学習に取り組む態度は、挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉えるなど、形式的な活動のみで判断できるものではありません。



〇〇ができるようになりたいなあ。

そのためには〇〇を学ぶ必要があるな。

勉強したけれど、〇〇も必要だぞ。

勉強のやり方を少し変えてみよう。

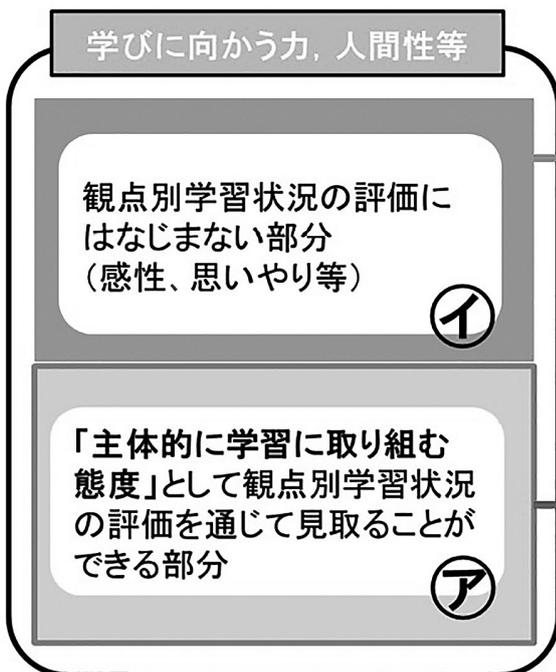


このような主体的に学習に取り組む姿を評価するために大切にしたいこと

- ・ 単元や題材を通じたまとまりの中で、子どもが学習の見通しをもって、学習に取り組み、その学習を振り返る場面を適切に設定する。
- ・ 子どもが主体的に学習する場面を設定する。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善を大切にする。
- ・ 学校全体で評価の改善に組織的に取り組む体制づくりが必要となる。

☆「学びに向かう力、人間性等」において観点別学習状況の評価になじまない部分について

「学びに向かう力、人間性等」には、⑦主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、①観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分(感性、思いやり等)があります。①については観点別学習状況の評価の対象外とし、個人内評価等を通じて見取る必要があります。



個人内評価(児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの)等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

単元の学習評価例

本書 P. 10「単元デザイン例 小学校 5年国語」を例に観点別学習状況についての単元の学習評価例を「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料をもとに紹介します。

(1) 「知識・技能」の評価

・ **知識・技能①** ～文章の構成について理解している。(第2・3・4時)

※評価方法：ノートの記述内容

<学習活動>

- ・自分たちが住んでいる市の図書館に関する新聞記事を提示して、新聞記事は重要な事柄を見出しで示し、リード文から本文へと次第に詳しく書かれている「逆三角形の構成」であることを捉えながら読む。

「おおむね満足できる」状況 (B)

新聞記事の「逆三角形の構成」について、図1の①②③のように正しく理解して書き込むことができている。

「努力を要する」状況 (C) とその支援

新聞記事の構成について理解できないため、教師と一緒に内容を確認しながら書き込みを進める。

図1：児童1がノートに書き込んだものの一部（ノートに新聞記事を縮小したものを貼る）

「十分満足できる」状況 (A)

見出し、リード文、本文の構成だけでなく、それらと写真や図表の関係についても書き込んでいる。

(2)「思考・判断・表現」の評価

・ **思考・判断・表現** ～「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(第5・6時)
 ※評価方法：児童が資料を読んでまとめた図の記述内容

<学習活動>

・ 図書館だより、広報誌、別の新聞記事など、自分たちが住んでいる市の読書推進に書かれた複数の文章を読み、新聞記事だけでは分からなかった市の読書推進の取組などについて調べ、自分が見付けた情報を整理して図に表す。

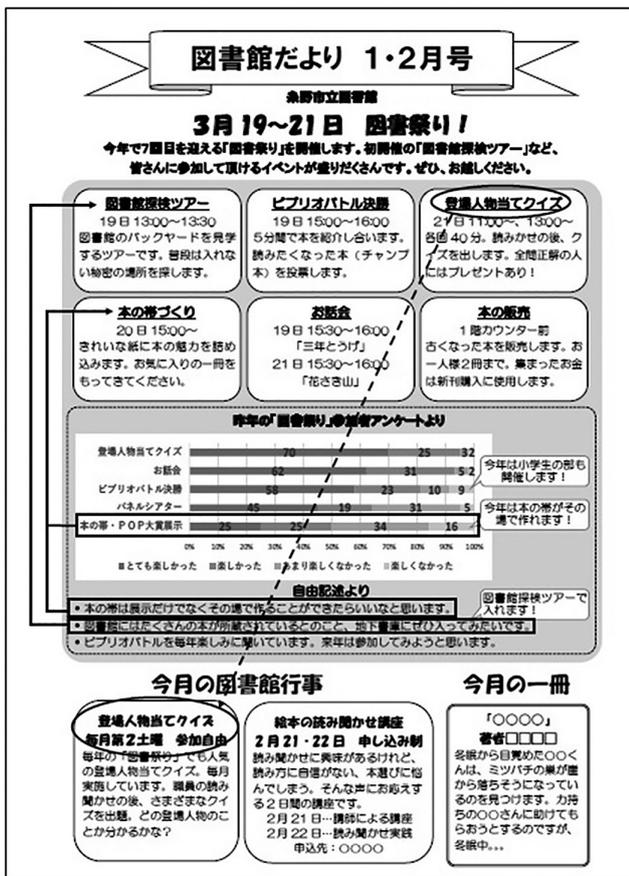


図4：児童3が「図書館だより」に書き込んだ内容

「おおむね満足できる」状況 (B)

図4の図書館だよりから、「図書館探検ツアー」や「本の帯づくり」は、昨年のアンケートの結果を受けて改善した内容であることや、「登場人物当てクイズ」が毎月の行事として実施されていることなど必要な情報を見付けて図5のように図にまとめている。

「努力を要する」状況 (C)とその支援

必要な情報を自分で見付けることができなため、前時までの学習を振り返りながら、教師と一緒に関係する情報の見付け方を確認したり、友達との交流で分かったことを記入したりして、必要な情報を見付けられるようにする。

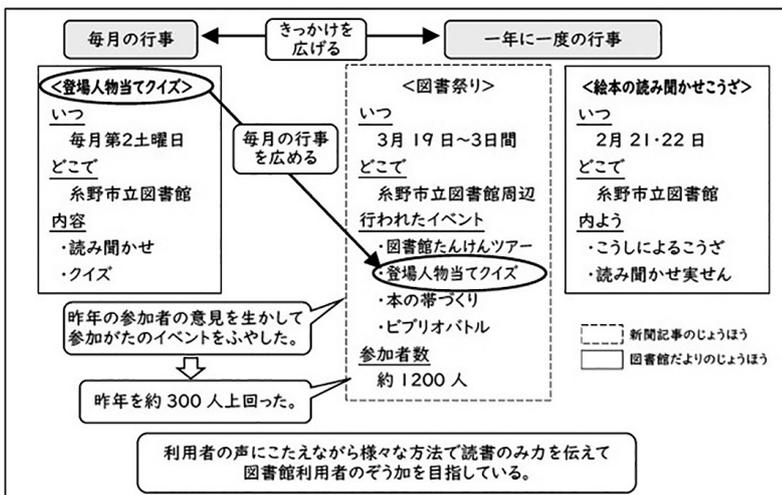


図5：児童3が市の読書推進の取組についての新聞記事と「図書館だより」の情報を関連付けてまとめた図(一部抜粋)

「十分満足できる」状況 (A)

提示された以外の複数の資料を結び付けながら必要な情報を見付けたり、必要な情報かどうかをより正確に取捨選択したり整理したりして図にまとめている。

Ⅲ 研究のまとめ

3年間の研究を振り返って

今年度は、研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり」の3年次として、「主体的・対話的で深い学びに関わる要点の整理」「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた各教科等の単元デザイン」「主体的・対話的で深い学びにおける学習評価」についてまとめました。

3年間の成果と課題には、以下の点が挙げられます。

<成果>

- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりについて、理論研究の基礎・基本から実践事例など多岐に渡って発信することができた。
- ・胆振管内の実践例を紹介することができた。
- ・学校訪問の際に本研究所の理論研究を活用して校内研究を進めていただいている学校が数多くあった。
- ・平成28年度の本教育研究所の調査課題研究「アクティブ・ラーニングの取組アンケート」より、実践している教科・領域に差があるという課題があり、その解決に向け、全ての教科等における単元デザイン例を研究所員全員で作成することができた。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりについて、多くの先進実践例を発信することができた。

<課題>

- ・今後も主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりにおいて、胆振管内の共通認識を図るため、随時情報発信をしていく必要がある。
- ・単元デザイン例をもとに授業改善をした結果、どのような効果があったかなど、具体的な成果について検証していく必要がある。

◆参考資料一覧

- ・学習指導要領（平成 29 年告示）、学習指導要領解説（文部科学省）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（文部科学省）
- ・教育課程企画特別部会 論点整理（文部科学省）
- ・「学校における教育課程編成の実証的研究 報告書 1」及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（国立教育政策研究所）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ・学習評価の在り方ハンドブック（国立教育政策研究所）
- ・令和 2 年度小学校教育課程編成の手引き（北海道教育庁学校教育局義務教育課）
- ・主体的・対話的で深い学び実践ハンドブック（新潟県立教育センター）
- ・「信州教育の学びの基盤づくり」単元構想シート（長野県教育センター）
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】（栃木県総合教育センター）
- ・初等教育資料 No. 996

◆研究・執筆

役職名	氏名	所属学校	職名
所 長	野崎 均	登別市立緑陽中学校	校長
副 所 長	立花 和実	伊達市立伊達中学校	校長
事 務 局 長	高橋 賢治	登別市立富岸小学校	主幹教諭
事務局次長	村井 淳一	伊達市立伊達中学校	主幹教諭
所 員	本所 章宏	伊達市立伊達小学校	主幹教諭
所 員	武田 成永	登別市立緑陽中学校	主幹教諭
所 員	藤田 宣夫	登別市立幌別西小学校	教諭
所 員	石井 芳政	伊達市立伊達西小学校	教諭
所 員	宮崎雄太朗	伊達市立光陵中学校	教諭
所 員	黒川 知恵	白老町立白老小学校	教諭
事 務 職 員	水留恵美子	胆振教育研究所事務所	

◆あとかき

深澤英雄著「学習指導要領 2020 実現のための『新・教師力』」に、新学習指導要領を踏まえ、20 項目の、今、求められる「教師力」が書かれていました。

その中の「信念を貫く力」の中に「星を望み地を歩む」との言葉があり、感銘を受けたので紹介します。

「星」とは「理想」、「地」とは「現実」。「理想を目指して現実を歩む」という意味で、理想を胸に現実を歩み続ければ、いつしか、この手に理想をつかむことができるだろうという言葉です。

教師は、教育への理想と情熱をもって教職に就きます。「その理想を今も失っていないか」と問い、「失っていない」と胸を張って言えれば、星を望み地を歩んでいると言えます。

胸に抱いた理想が、厳しい現実さらされて、劣化してしまうこともあるでしょう。とても理想どおりにいかないと、現実まみれる中で、いつしか、自分の「星」を見失ってしまうこともあります。現実の教育の仕事は困難で、とても理想どおりにはいかないけれど、理想を失っては生きる目的を失うことになります。一步一步、歩いていきましょう。

コロナ禍という未曾有の大きな困難と立ち向かったこの1年。日々刻々と事態が変わっていく中、先が見えずに肩を落とす日もありました。思うようにいかず、ぶつけようのない気持ちを抱えながら日々を送ってきました。

しかし、私たちは、子どもの幸せを願い、様々な創意工夫を凝らし、歯を食いしばって教育活動を展開し抜いてきました。今は思いどおりにならないことも多いかもしれませんが、自分の「星」を見失わず、理想をもってこの難局に立ち向かっていきたいと決意しています。

また、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりについても、理想の「星」、子どもたちのゴールの姿を思い浮かべて授業改善をしていくことが重要であると感じます。

今年度、本教育研究所では、3年間の研究のまとめとして、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、各教科等の単元デザイン例や学習評価等について実践事例を基にまとめて参りました。ぜひご活用いただき、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりの一助となれば幸いです。

次年度は、新たな研究主題のもと、理論研究を進め情報発信をしていきたいと考えております。今後とも、本研究所に対するご理解とご協力を賜りますよう、よろしく申し上げます。

担当所員 藤田 宣夫

令和2年度 研究紀要 第232号

《研究主題》

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

～3年次～

発行年月日 令和3年3月9日

発行 胆振教育研究所

代表者 所長 野崎 均

印刷 デザインワーク・エーヂ